

自分の手の届く所から

岐阜市立本荘中学校 3 年
東野 佑飛（ひがしの ゆうと）

皆さんは、金華山に「看板には落書きをしないでください」と書かれた看板があるのを知っていますか？イノシシ注意や落石注意などの看板とは違って、この看板は命を守ることとは直接関係がないように思います。なぜ、このような看板が設置されているのでしょうか。それは、少しのマナーを守らない人のためです。看板に落書きがされると、その効果を失ってしまいます。それだけでなく、その落書きをきっかけに山は荒れていってしまいます。そのため、これ以上落書きが広がらないようにこの看板は設置されているのです。このように少しのマナーを守らない人がいると、新たに時間を割いて対策をとらなければいけなくなってしまいます。

他にも、最近のコロナ社会では、マスクをせずに飲食店に入るというマナー違反によって、多くのトラブルが起きているというニュースをよく耳にします。このことは、ニュースの世界だけではなく、自分自身も体験したことがあります。私がおつかいで行った近所のスーパーでのことです。ある男性がマスクをせずに買い物をしていて、それが原因でトラブルが起こったことがありました。そのトラブルで、男性の周りの商品は一時買えなくなってしまい、スーパーはその対応に追われていました。対応に追われたのはスーパーだけではなく、私もおつかいで頼まれた食材を買うために、他のスーパーへ行く必要がありました。ほんの少しのマナー違反でも、多くの人や店舗に迷惑をかけてしまうことがあります。

とはいえ、実際には多くの方がマナーを守れています。私の学校では、体育の時間でも全員がマスクをつけています。マスクができない給食の時間には、全員一言もしゃべらずに食事をしています。私は、このように誰もがマナーを守れる社会になってほしい、そう強く願っています。しかし、先ほどのスーパーでの男性のように、マナー違反に対して注意のできない自分がいます。学校がない休日の日には、自分と自分の周りの人がマスクを外してしまう場面があります。そして、それをとがめずに見逃してしまう自分がいます。

「マスクをつけなければいけない」というルールや法律はありません。そのため、マスクをしていなくても罰則はありません。しかし、社会の現状を考えた時に、人と接する時にマスクをつけることや食事中に会話をしないことは、罰則がなくてもすべきことなのではないでしょうか。もし、それを破ってしまうと「あんなにマスクをつけていない人がいるんだから、自分だってつけなくてもいいや」と、マナーを守らなくてもいい雰囲気が生まれてしまいます。これでは、「誰もがマナーを守り、誰もが我慢をしなくてもよい社会」はできません。そこで私は、自分には何ができるのか考えてみました。それは二つあります。一つは、人と接する時には、必ずマスクを付けること。もう一つは、友達がマスクを外してしまった時には、「マスクをつけよう」と呼びかけること。

見ず知らずの人の行動は変えられなくても、自分や自分の周りの人の行動は変えられるかもしれません。そして、自分と自分の周りの人の行動や思いを変えていけば、見ず知らずの人が「やっぱり自分もマスクつけない」と思ってくれるかもしれません。私は、そんな社会が生まれ出せるように、自分にできることを今日から実践していきます。